



SUWADA OPEN FACTORY

各地で大雨の報道を耳にし、昨年も被害に見舞われた当地としては他人事と思えずひたすら無事を祈り、天を仰いでいる今日この頃です。

そんな中、このほど GALLERY には SUWADA の象徴となる作品がまた一つ、お目見えしました。

七夕の日に完成したその作品は、天の川にも見えます。天から見守ってくれる星達に恥じないよう一層仕事に邁進する気持ちになりました。



六尺×二間の大作「玄の又玄」 泉田佑子先生作



「SUWADA 七夕 書道のつどい」で書道パフォーマンス

7/7 七夕の土曜日、加茂市在住の書家 泉田佑子先生による書道パフォーマンスで FACTORY SHOP は大歓声に包まれました。

「SUWADA の象徴となる巨大な作品を」という社長の要望を快く受けていただきテーマに選んでいただいたのが「玄の又玄(げんのまたげん)」。老子の道德経の第一章「玄之又玄は衆妙の門なり」より着想されたものです。

SUWADA のコーポレートカラーは黒。そのこだわりを「黒の中の黒=玄之又玄」と表してくださいました。7枚の大きな和紙に黒墨を5層も重ね塗りすることで、深い黒を表現。それに表具を施して組み立てた巨大な壁面が、FACTORY SHOP 内の特設ステージに配置されました。墨汁の代わりに SUWADA の職人が「銀」の延べ棒を研磨した銀粉をニカワと混ぜて作った特製の銀泥(ぎんでい)を使います。会場ではその銀泥をすり鉢に入れ、観客一人ひとりが棒で磨(す)りながら想いを込めました。北斗七星の第一星「魁星」にちなみ「魁の筆※」を選択。準備万端整ったところで「SUWADA の一員になったつもりで作品を仕上げたい」とTシャツ姿になられた先生は、壁面に全神経を集中させます。静寂の中、筆を取り中央やや左上に第一筆。真っ黒な壁に、銀泥が飛び散ったかと思うと、後はまさに斗魁の鬼神※のごとく一心不乱一気呵成に「玄之又玄」を書きあげられました。

私達観客はその緊張感の極みと圧倒的な迫力に魅了され、その刹那に感動的な時間を共有させていただきました。

※「斗魁文昌星の鬼神」についてはこちらをご参照ください→<http://takenami.hiroo-nebutaken.com/2011mnn.html>

書道ワークショップ ～筆ペンで書いてみよう

書道パフォーマンスの後は、泉田先生によるワークショップが開かれました。七夕にちなんで短冊やうちわを用意し、筆ペンで思い思いの文字や絵を書きます。持ち慣れない筆ペンに最初はとまどっていた生徒さんも、遊びながら点や線を書いていくうちに慣れてきて、筆先を使って細い線を書いたり太く強調したりしながら作品を仕上げ、七夕のイベントを楽しんでいただけました。



泉田佑子 (いずみたゆうこ) 先生プロフィール

5歳より筆を持ち始め、新潟大学教育学部書道科卒業後も、同大学の研究生として学ぶ。既成概念にとらわれない独創的な作品に挑戦し自らのスタイルを確立。2000年「墨遊 はちまき屋」を立ち上げる。ホテルオークラ新潟のレストランのロゴ、りゅーとびあ主催の能楽堂シェイクスピアシリーズの題字をはじめ、多数のロゴやマークのデザインワークを手掛ける。新潟市民芸術祭市長賞、新潟県展連続入選など輝かしい実績を誇る。2012年十日町きもの女王としても活躍中。今年11月21～25日近代美術館(長岡市)で個展開催が決定。

<この件に関するお問い合わせ>

(株) 諏訪田製作所 総務 小林 TEL: 0256-45-6111 e-mail: suwada@suwada.co.jp